

学校点描

校内授業研究会を15日に行いました。生徒が主体的に熱中して学ぶための研究を積み重ねていきます

《K中学校》

NO.6 R2. 6.23

担当：校長

ジメジメしてきた季節、朝の職員打合せでは教頭先生が、マスク着用もあり、「積極的にエアコンを使って、生徒の健康を維持しましょう。」と指示をだしています。地元の業者の方には、1Aのエアコンが故障した際は、すぐに対応していただきました。

6月16日（火）の18:30からランチルームで、部活動保護者会長・コーチ会議を開催しました。我が子だけでなく、部活動の部員の子どもたちやその保護者をまとめるのは、本当に大変なことだと思います。まずは感謝の言葉を添えて、ようやく通常の部活動運営に入ったことをお話ししました。

翌日は、育児休業でお休みになっている、音楽のO・K先生が、1歳になったお子さんをつれて学校に来てくれました。故郷の千葉県で里帰り出産したことやコロナウイルスで家からなかなか出られなかったことを報告してくれました。

心の居場所

先週は、お昼の時間に、生徒会長のH・Yさんに引き続き、副会長のM・HさんとK・Rさんとも面談をしました。わたしの事を言うのはちょっと恥ずかしいんですが、わたしは中学校のとき、生徒会長に立候補して見事落選したんですね。そのことを話をしました。「何人立候補したんですか？」と聞いてきます。「二人だよ」と答えました。そのうちに、立候補した理由や当選したときの気持ちを二人は語ってくれました。それを聞きながら、当時の自分は、真面目に母校を愛し、考えていたわけで、落選したショックは相当だったなあと改めて感慨深く感じましたね。

最近は朝、校舎側の駐車場付近とテニスコート側の入り口付近と毎日交互に立って挨拶運動をひとり展開しています。以前よりは、私の方から声をかける前に、挨拶のことばを出してくれる生徒が増えたように感じます。

「学校に、心の居場所を」と言われますが、居場所を感じている生徒もいれば、なかなか教室に居場所を感じにくい生徒もいます。

2年生のI・Kさんは、朝外で会うと目を見て挨拶してくれる生徒の一人です。

わたし：「おはよう。今日は、どうやって来たの？」

I・Kさん：「車です。家は朴山なんです。」

わたし：「誰から、送ってもらうの？」

I・Kさん：「おばあちゃんです。自転車でも来れるんですが、今日は送ってもらいました。」



わたし：「（送迎する）おばあちゃんも大変だね」

I・Kさん：「そうです。各家庭、いろいろ大変なんですよね。おばあちゃんには感謝です。」

なんか、大人っぽく言うI・Kさんにほっとしてしまいました。

仏教に「無住処（むじゅうしょ）」という言葉があります。漢字では“住む所が無い”なので、わたしは最初、ホームレスのことだと思ったら大間違い。これは、特定の場所に留まっていない、縛られていない、自由にどこにでもいられるという意味なんだそうです。日常生活で、多くの大人は、家と仕事場の往復。生徒は、家と学校の往復。自分の身体がそれだけに束縛されていると思う人は多いでしょう。この束縛感に時々「これでいいのだろうか？」と疑問に思う人は少なくありません。しかし、よく考えてみると、私たちはいつも同じ、たった一つの自分であることはありません。家族の一員という立場（居場所）、労働者や社長としての立場、子の親という立場、生徒会役員という立場、保護者会長の立場、バスに乗れば乗客になるし買い物すればお客さんという立場になる……そんなたくさんの自分が入れ替わり立ち替わりしています。ちっとも縛られてなんかいないんです。

心の居場所とは、いろんな立場になれる自分に気づいてこそ得られるものなのかもしれません。

お蔭様で、中学生のわたしは選挙落選の後も、非行やぐれることはありませんでした。

落選が決まった日、生徒指導担当の先生であり、わたしの部活の顧問でもある先生が、わたしを職員室に呼んでこう言うんです。

「残念だったな。でも、うちの部活にとってはよかったよ。」って。

わたし、この言葉で自分の居場所を見つけました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp